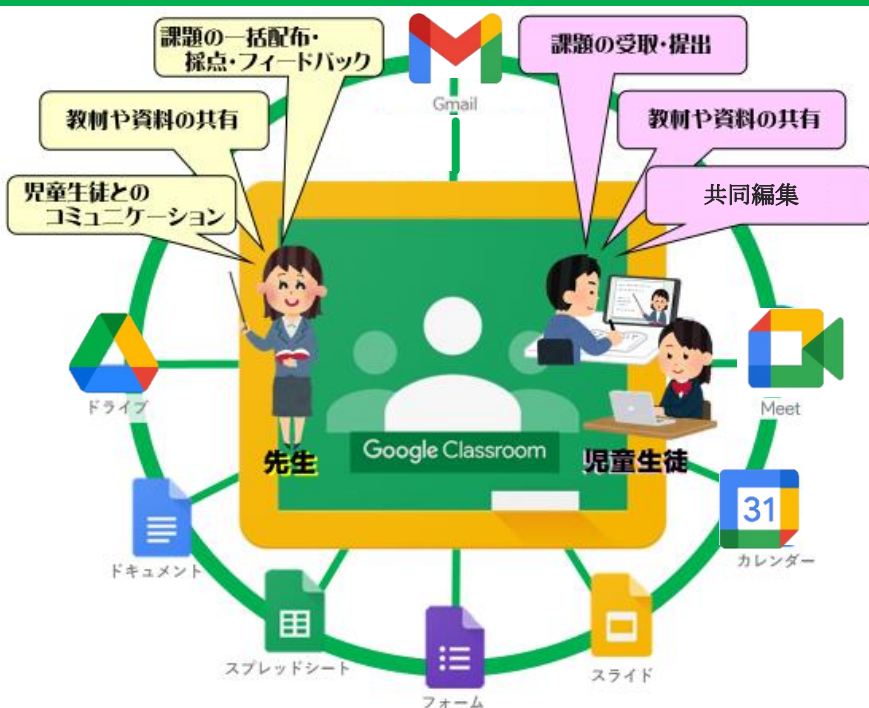


仙台市GIGAスクール

教育用クラウド「G suite for Education」が利用できる 1人1アカウント（ID）を配付しました

※各学校での児童生徒へのアカウント配付のタイミングは、学校により異なります。

G suite for Educationでできること



例えばこんな学習ができます

- 共同編集機能があるので、グループでプレゼンやポスター、文集など色々な作品を一緒に作ることができます。
- Web会議システム「Meet」を使って、学校間交流等ができます。
- 「Classroom」を使って、授業の資料が配付されたり、オンラインで課題を提出したりすることができます。
- データをクラウド上の「Google ドライブ」に保存するので、家でも学習したことを見直すことができます。

アカウントの利用で気を付けていただきたいこと

- アカウント（IDとパスワード）は、インターネット上の身分証明書です。自分自身で大切に管理してください。（発達段階によっては、保護者や学校と協力して管理しましょう。）
- 学校の約束を守って利用してください。
- 家の端末からでも使えますが、配付しているアカウントは、教育委員会が学習目的で配付している公的なアカウントです。適切な利用をお願いします。

導入端末について

NEC Chromebook Y2

搭載OS	Chrome
寸法	294.6(W)×209.6(D)×20.4(H)mm
ディスプレイ	タッチパネル サイズ：11.6型 360度回転
質量（バッテリー含む）	約1.276kg
バッテリー	駆動時間約11.2時間（充電アダプタType-c）
カメラ	インカメラ・アウトカメラ
堅牢性	本体は、MIL規格（MIL-810G）準拠 防滴設計のキーボードとタッチパッド採用

4つのスタイルに変化
-使いやすい方法で自由に-



仙台市における情報教育推進2021

本市のこれまでの取組

○仙台市学校教育の情報化推進方針

- ・基本的な考え方
(1) 情報活用能力の育成・向上が図られるICT環境を整備
(2) 効果的なICT活用が促進されるような取組を進め、学びの質の向上
(3) 安全安心にICTを活用できるよう、教育情報セキュリティの維持や見直し
- ・学校教育の情報化推進に向けての施策

教育をめぐる社会環境の変化

- 技術の急速な進展 (Society 5.0)
・AIやIoTが生活の中で当たり前のもので存在する社会の到来
- 人口減少・少子高齢化社会の進展
- 教育の機会の一層の充実の必要性
・ICTを活用した学びの保障
- GIGAスクール構想
- PISA結果 2018年 (OECD生徒の学習到達度調査)
・判断の根拠や理由を明確にしなが、自分の考えを述べる力について課題が見られた
・学習活動におけるデジタル機器の利用が、他のOECD加盟国と比較して低調

本市の今後の課題

○児童生徒たちを取り巻く環境変化により学校が抱える課題

- ・GIGAスクール構想の実現 (個別に最適で効果的な学びや、これまでの実践とICTとのベストミックスを図る等)
- ・AIやロボティクス、ビッグデータ、IoTといった技術が発展した「Society5.0時代」や「予測困難な時代」への対応
- ・情報活用能力 (プログラミング教育や情報モラルを含む) 育成の充実
- ・多様な教育や問題への対応 (学びの保障、防災教育、遠隔教育、不登校、いじめ等)
- ・教職員の働き方改革 (児童生徒と向き合う時間の確保等)

今後求められる教育

- 新学習指導要領に基づき、資質・能力の三つの柱 (「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性など」) をバランスよく育成する。
- ・資質・能力の育成に、より効果的なICT活用
- ・個別に最適で効果的な学び
- ・探究的な学習の充実
- ・実社会での問題発見・解決に教科横断的に取り組む教育 (STEAM教育等)

仙台市における情報教育推進2021

これからの社会を、たくましく生き抜く力を育む

- これからの社会を「たくましく」「しなやか」に生きるために、必要な資質・能力としての情報活用能力を育成します。
- 自らの学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育成し、多様な学びで児童生徒に豊かな創造性を育みます。

～ 他者と協働し、自ら学び、自己の学びをデザインする ～

学びの往還

【個別最適な学び】

基礎的・基本的な知識等を確実に習得させるため、「ICTの活用」や「専門性の高い教師」による効果的な指導を通して、子ども自ら学習を調整し、その子供ならではの課題を設定し、主体的に学習を最適化する学び

【協働的な学び】

教師と児童生徒の関わり合いや、児童生徒同士の関わり合いなど様々な場面でのリアルな体験を通じた学びや、ICTの活用による他の学校の子供たちとの学び合いなど学校ならではの協働的な学び

【探究的な学び】

持続可能な社会の創り手として、地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、実社会での問題発見や課題の解決等に当たって、教科横断的な視点に立って、情報活用能力を発揮しながら探究する学び

【学びの保障】

学校と児童生徒等の関係を継続し学びを保障するための取組を行い、積極的にICTの活用をすることで時間や場所に制約されず、多様な学びを通して、新たな価値を生み出す豊かな創造性を育む。

学習環境の整備

- ハードウェア
・児童生徒への1人1台端末整備 ※1学年分の端末整備 (高等学校) ・将来的な端末整備の在り方の指針策定
- ソフトウェア
・G suite 標準アプリ (G Suite for Educationの導入) 等の整備 ・1人1アカウントの整備
・国及び本市の教育ビジョンに合わせて実証結果を踏まえた教育用ソフト (デジタル教科書・ドリル・学習支援ツール等) の指針策定
- ネットワーク
・同時接続数を考慮した校内の帯域確保及びセキュリティ強化 ・BYOD (端末持ち込み) を考えの一つとしたネットワークの検討
・遠隔教育 (どこでも学べる学習機会の確保) を進めるためのネットワーク環境等の検討

学校支援

- ヘルプデスク・ICT支援サポート
・電話や現地対応等による学校支援
- 研修の充実
・児童生徒が一人一台環境を日常的に活用するための研修等の充実
・教員同士の学び合いの推進
・情報活用能力のカリキュラムマネジメントの徹底とプログラミング教育の推進
- 校務支援システムの利用促進
・児童生徒と向き合う時間の確保 ・働き方改革